○東亜植物文献目録増補の編輯を終えて (江本義数) Yoshikadzu EMOTO: On the compilation of a supplement to 'A bibliography of Eastern Asiatic Botany'

東亜植物文献目録は 1938 年に E. D. Merrill, E. H. Walker 両氏により Arnold Arboretum から発行され，既に 20 年以上も経過している。そして Merrill 氏の死後は増補を出すように Walker 氏が専らことを運んでいた。

一昨春，この増補出版について日本の学者の協力を求められ，東大の原寛教授とお茶の水女子大の津山尚教授のきもいりで，先ず日本学術振興会に委員会が組織され，小谷正雄委員長，委員 14 名が委嘱されて準備が軌道にのった。それ以後のことは既に報ぜられたところである。

一昨年四月，私が委員としてこの編輯に関係してからは専ら Walker 氏から送って来た文献カードについて原著のある雑誌，表題，著者名，巻，頁，図版，挿図等を確め，訂正すること，著者，和文表題を日本字で記入すること，和文表題だけの場合には英訳を加えること，それに編入漏れの論文を加えることなどであった。

さて始めて見ると仲々の大仕事で驚いた。先づ委員会の取りきめで，雑誌の重要と思われるものから a, b, c Class に分ち， a は綿密に調べる，c は時間の余裕があれば見るという建前で，9 月迄に，単行本は 11 月迄に一応完了することとなったが，さて雑誌でも報告書でも 1 個所に完全に所蔵されている所はなかなかないことが判った。殊に戦争が禍している。それで東大理学部植物学教室の図書室を調べ，それから後は農学部森林植物学教室，同演習林，同農芸化学教室，同林政学教室，応用微生物研究所第三研究室を探し，また西ケ原の農業技術研究所，目黒の林業試験場，国会図書館（赤坂，上野）にも出てカードに記載したり，訂正したりして，ある程度まとまると，それを米国の Walker 氏に送った。かくして一応は 11 月に目鼻がついたので，主な著者に各委員から論文の表を送って遺漏を補って貰い，12 月に一先ず重荷を下すことが出来たと思ったが，やはり本年 3 月頃までいろいろの問合せのやりとりで過ぎた。そして本年 5 月 1 日に Walker 氏夫妻が来日されてからは，これまでの関係上やはりお手伝をするようになり，出版の仕度に取りかかった。処が出来ている筈の索引が全然手がついておらず，その上私の書いたカードをタイプしてあるのに再び日本字を入れなければならず，一昨年と同様大分と忙しい毎日を送らねばならなかった。それに日本字が書いてあっても難解のものがあり，印刷に廻す前にどうしても今一度目を通す必要がある（何でも在米の台湾の人が写しかえたとかである）。然も私が送った原稿の大分部は御用済と思ったか捨てられて仕舞った。

とにかく東亜ということで日本，中国，台湾，朝鮮，ソ連など広範囲にわたり，言葉も日本語は勿論，支那語あり，朝鮮語あり（これは割合に少い），ロシア語あり，それに英語は無論のこと，ドイツ語，フランス語ありというわけで，目を白黒しているわけにもゆかず，支那，朝鮮，ロシア語はお断りしてことを運んだ次第。日本，中国，台湾，

ソ連発表の論文や単行本の表題はそのまま掲載し，かつ英語を入れ，日本の本にはローマ字綴を加えた。殊に索引となると実は大変である，何しろ全部で12200枚以上のカードを仕分けして一般的の，地域別，分類学的のものと3部分にし，分類学に関するものは下等な virus, bacteria から高等な顕花植物に至るまで，夫々の綱に別ち，更にその各の内でもそれが全般にわたる論文，科に関するものを一括して著者の Alphabet 順に整え，属も同様 Alphabet 順となし，その上各属についても論文の著者名の Alphabet 順に並べる。又病原菌の宿主を科で区別，Alphabet 順に並べ，その上寄生菌記載の論文(之も著者の Alphabet 順)を記す。また中国，台湾の著者名にはそれぞれ支那発音と漢字名。日本人のは漢字とローマ字綴を添え，そして採用の日本，中国，台湾の雑誌，報告書も同様，更にこれら日本人，中国人，台湾人の漢字の字画数で表を加えられた。この様にかなり手の込んだものである。

かくして6月末頃からは印刷の初校が出る様になって校正を日常の予定に挿入せねばならぬ有様，その上原著も見なければ判断のつかぬものもあるというわけで益々せわしくなった。それでも9月には本文の再校が全部出来るし，索引の方もまた地域の区別も終って Walker 氏にお引渡しすることが出来たのである。

この様に約1年半の間，随分せわしい思いをし，時には Walker 氏とも論議を重ねて本文献増補の仕事を曲りなりにも楽しく遂行し得たのは私の幸とする処で，日米修好百年に際してこの仕事をなし得たこともよい記念となった。同時に各方面の皆様方から種々御協力，御鞭撻を頂いたことを，改めてここに心から感謝する次第である。尚Walker 氏夫妻も11月23日帰国され，本年初には出版されることを併せて御知らせする[1]。そこで原文献目録と本増補とを比べて見よう。

	総頁数	本文頁数	総項目	日本人著者	日本人著項目
原目録	719	555	58886	663人	4052
増　補	600	414	12224	1212人	4831

増補に編入された日本人論著項目は 4831 で総項目 12224 に対して 39.5% に達している。これ等を原目録に比べると夫々 4052, 58886 であって僅かに 6% に過ぎない。勿論原目録でも本増補でも遺漏や誤謬のあるのは事実で(増補には原目録締切以前のも加えられた)，殊に私が手掛けた増補に就いては出来るだけのことはしたつもりであったが，何分にも短期間に仕上げたので各著者に対して申訳がない気持で一ぱいで，深く御詫び申上げる。兎に角22年間に日本人の業績が 6% から約 40% にも増加したということは素晴らしい躍進ぶりである。この外，生理学その他の学科を併せたらその進歩に目をみはらざるを得ないであろう。御互に喜び合えることである。それで私は今後第II 増補の作られる時にはどんな目覚ましい発展が実現されるかを楽みにして筆をおきたい。

1) E. H. Walker: A bibliography of Eastern Asiatic Botany—Supplement 1. 東亜植物文献目録　増補 1　発行所 American Institute of Biological Sciences 日本国内取扱所：東京都港区南佐久間町 1 丁目 53. 笠井出版印刷所　定価 6660 円（図書館割引定価 5940 円）